

巻頭言



広島市歯科医師会創立100周年に向けて

一般社団法人広島市歯科医師会会長 川原 正照

平成27年6月末の定時総会において、一般社団法人広島市歯科医師会第24代目の会長の職に就きました。所期の目的達成に向けて粉骨砕身尽力をいたす所存でございます。さて本会は1918（大正7）年2月11日に50名ほどの会員で“広島県歯科医師会広島支部会”として発足しました。戦中、戦後の混乱期や幾多の試練を先達の諸先生方の歯科医療に寄せる確固たる信念と情熱とによって乗り切り、今や会員数425名で構成される中国・四国でも有数の郡市地区歯科医師会へと成長いたしました。平成30年2月には記念すべき創立100周年を迎えます。現在、同年9月を目途に、会員の先生方と共に祝い出来るような記念講演などの周年行事を計画中です。

さて平成25年に一般社団という法人格を得た本会ですが、広島市域における唯一の“公に資する”職域団体として、公益社団を目指すことも総会で承認されました。これまで以上に地域歯科保健活動に汗を流し、広島市民の口腔文化観を向上させ、歯科医療の重要性を啓発して潜在患者を顕在化する事業を展開し、公益社団として生まれ変わる努力を続けます。

また、がん患者の周術期口腔ケアによってもたらされる“術後合併症の減少や早期離床、在院日数の短縮”といった様々なメリットに対しては、医療費削減の観点から保険者が歯科医療に対して大きな期待を寄せています。今後も市内の総合病院との連携をさらに強くして、患者さんの罹患率の減少、会員の先生方の診療所への患者紹介、その結果の総医療費削減という“三方良し”に繋げたいと考えております。

さらに団塊の世代が75才という後期高齢者の年齢に達する“2025年問題”に対し、医師会では「地域医療から地域包括ケアへ」と地域完結型の医療を見据えた取り組みをすでに始めております。歯科医師会でも地対協などを通じこれまで以上に区支部での医科との連携を強化していくべきであり、地域密着型で地域完結型の歯科医療を会員全員が取り組める研修会の企画も考えております。

また築後50年を超えた広島県歯科医師会館の新築移転に伴い、本会も東区二葉の里地区に建つ新会館の1階・2階の一部を区分所有することとなりました。来年早々にも事務局機能の移転を控えておりますが、現在より手狭になり収納も限られているため、会議録や啓発資料のデジタル化などの作業を進めているところです。

本会会務にあたっては、会員の先生方の叡智を結集し、我々執行部が代表して運営に当たらせていただくものだと思っております。毎月発行の「広島市歯科医師会だより」を通じて情報共有をし、支部長・副支部長会や総会を通じて多くのご意見・ご要望を頂戴したいと思っておりますので、これからもご理解とご協力を賜りますよう、紙面をお借りしてお願い申し上げます。